

1型糖尿病患者の Personal Health Record 情報集積による大規模災害時の効果に関する検討

研究代表者 阪本 雄一郎（佐賀大学救急医学講座教授、佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター長）

研究のゴール 1型糖尿病の治療（大規模災害時の支援システム確立）

研究の特徴 アプリを通して集めた Personal Health Record（PHR、パーソナル・ヘルス・レコード：個人の健康情報）を災害基幹病院である佐賀大学医学部附属病院に集積し管理することで、大規模災害時の病院間の連携や迅速な患者支援にいかします。

研究概要

災害時の個人の位置情報や PHR としての疾病情報や投薬情報などを有事の際に確認できるようなシステムを確立するため、専用のサーバーを佐賀大学医学部附属病院に設置します。集積する疾病情報や投薬情報などは、別事業において開発中のアプリを用いて、個人の同意のもとで集めます。

このシステムの有用性を検証するために日本 IDDM ネットワークと協働して実動訓練や机上訓練などを行い、全国展開を目指した地方都市でのモデルケースを確立します。

これまでの研究結果・成果

これまでの成果としてAMED（日本医療研究開発機構）事業においてPHRを運営する上での情報基盤の有用性や実際のデータの集積を継続的に行っております。また、現在はJST（科学技術振興機構）探索事業において防災のモデル構築事業を佐賀県内を中心に行っており、災害時の要支援者や家族の安心、安全を実現すべく様々な取り組みに着手しています。

アプリ利用のイメージ：災害時安否確認



現在の状況

1型糖尿病の患者様におけるインスリンなど災害時の休薬が危険な薬剤確保をスムーズに行うシステムの構築を関連学会や支援団体と協力して進めています。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

これまで有事の際のインスリン確保は病気の症状や被災時の状況にかかわらず患者自身やその家族のみで対応する必要があり、日常の血糖コントロールに加えてさらに負担を強いられていました。本システムの構築により、地域の中核病院である災害拠点病院や災害時に実働を行う高度救命救急センターとも事前に疾病情報や投薬情報を共有して情報基盤を確立することで、患者・家族の日常の安心・安全につながります。

患者・家族、寄付者へのメッセージ

災害時の情報基盤事業を進めている佐賀県を中心として全国に向けた1型糖尿病患者の皆さんの災害時の命を守る仕組みづくりは日本が世界一安心・安全な国になるための大きな一歩につながると考えております。

ロードマップ

現在の進捗率
約50%

2019年

アプリ開発と実装に対する倫理承認済み

現在

災害時の糖尿病アプリの開発

アプリケーションの実装とユーザーからのコメントの集約による改良

2020年

災害時の安心・安全のための全国展開

1型糖尿病の治療法開発
(大規模災害時の支援システム確立)